

## 勝山市総合行政審議会（第15期第3回） 結果概要

開催日時	平成30年9月25日（火） 午後7時～午後9時30分
開催場所	教育会館3階 第2・3・4研修室
出席者等	出席委員15名
説明者	商工観光部観光政策課、商工振興課、 ジオパークまちづくり課、 ふるさと創生・移住課 農林部農業政策課、林業振興課 健康福祉部健康長寿課、福祉・児童課 消防本部
事務局	総務部未来創造課

### 議 題

平成29年度勝山市政策基本目標管理について

### 【Aグループ】 観光・まちづくり分野

担当委員5名

## 第1章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

### 1.1. 市民が主体となったまちづくり

#### 1.1.2. 市民活動の推進

##### ●委員

- ・ジオパーク拠点施設・ジオサイトの設定について、世界基準に見直されたというのはどういうことか。

##### ○説明者

- ・ジオパークについて、以前はユネスコのプログラムではなく、ユネスコが支援するプログラムとして認定されていた。ジオパークには、世界ユネスコジオパークと日本ジオパークがあるが、日本ジオパークについては独自の基準で認定をもらっていた。今回、ユネスコの正式プログラムとなったため、その基準に沿った審査がなされる。ジオサイトの基準が世界基準になっ

たため、それに合わせて見直しを行っている。再審査が来年にあるため、今のうちから、世界基準に合わせた色々なものの検討を進めている。

●委員

- ・具体的な中身を簡単に説明してほしい。来年、再審査ということだが、その可能性はどうか。

○説明者

- ・ジオパーク自体について、例えば勝山の成り立ちを学びましょうというように地球の活動等を学びながら楽しむのが日本のジオパークである。今までは「こういったものが価値あるものだ」という独自の基準で保護・保全・活用をしていたが、それが世界基準になると、「文化的な価値があるもの」「地質的な価値があるもの」という風にきちんと分類される。「ジオサイト（地形的な見所）」「カルチュアルサイト（文化的な見所）」「植物系のサイト（人の営みの見所）」と分けして、整理しなさいというようになったので実際に整理を行った。来年はおそらく審査をパスできるのではないか。

●委員

- ・他のエリアに行くとも目で見て学べるような施設もあるが、勝山ではどうか。

○説明者

- ・基本的には恐竜博物館という大きなものがあるが、遅羽公民館にある縄文の展示館も紹介しながら構想を作っている。

●委員

- ・他のところでは広域でやっているところもあるが、連携をとって行えないのか。

○説明者

- ・福井県は勝山市1市のみで行っている。ジオパークはエリアを設定しなければならず、勝山市では市全域をジオパークとして設定している。そのため、他のジオパークとネットワークを活用してやりとりは行いが、勝山市のジオパーク内のものではないため、ジオパークの一つとして認定することはできない。熊野等は県をまたがって行っており、それぞれの博物館が連携し、それぞれがジオサイトを定めており、そのようなことなら可能である。

●委員

- ・「勝山市エコミュージアム協議会」と協働した市民提案、市民審査型助成事業の継続についてジオパークとエコミュージアムの関係はどうか。

○説明者

- ・市でもずっと苦しんでいるところである。もともと、エコミュージアムを勝山市の地域づくりとまちづくりの手法として2000年に取り入れた。市長は、勝山市にある様々な毛色の違う魅力を包括して勝山まるごと博物館と題し、さまざまなものを現地で楽しむことができるようにする、そのために地域のいろんな元気を掘り起こそう、という活動をスタートさせた。その後、勝山市の恐竜化石など、地質的な魅力が非常に高いということで、ジオパークの取組みがスタートした。その際、ジオパークとエコミュージアムという2つの概念が非常に市民には分かりにくいという議論が起こった。ジオパークそのものは、地質公園、大地の公園など色々な言い方をしているが、ユネスコによると、エコミュージアムと非常に同じような概念である。2つの概念をしっかりと整理し、エコミュージアムで培ってきた市民の力について、これ

からはジオパークをエンジンとして進めていくこととし、1年ぐらいかけていろんな地区で説明を行った。2000年からエコミュージアム協議会という組織が地域づくりを担ってきたことから、エコミュージアムとしての考え方を土台として、その上にジオパークが存在するというイメージでエコミュージアム協議会という組織を現在も残し、地域のまちづくり協議会として活動いただいている。エコミュージアムにより培った成果をジオパークとして活かしていきたい。エコミュージアムという言葉が出てくるが、勝山市の地域づくり・まちづくりはジオパークにより進めていく。

●委員

- ・エコミュージアムは2000年からということだが、2007年にフォーブスの「世界で最もクリーンまち9位」、これは非常に名誉なことでもっと宣伝していいように思う。

○説明者

- ・ガイド時にはPRを行っている。たいへん光栄に思っており、市民にもそれをフィードバックするなかで、九頭竜川の清掃活動などがパワーアップしながら実施されているというような効果も出ている。風景がきれいなだけでなく、美しい川や道路もまちのひとつの自慢である。ジオパークそのものが、大地の上にたつ自然・歴史・文化・産業も含めた日々営み、全て包括しているものであり、環境は大地の上によってたつ大事なファクターだと思っている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 1.2. 効率的、効果的な行財政の運営

### 1.2.2. 公平・適正な税制運営等による歳入の確保

●委員

- ・クラウドファンディングをはじめとした新たな財源確保方策の活用について、ローカル線ガールズの方は目標金額を達成している。君原ロード創設の方は目標には届かなかったということだが、届かなかった分はどこかの予算を活用して事業を行ったということなのか。

○説明者

- ・一般的にクラウドファンディングについては、お金を集めて目標金額に達すれば、実際に事業が実施できることになる。しかし、自治体が行うガバメントクラウドファンディングは、オールオアナッシング方式（達成すればやる、1円でも足りなかったら事業は成立しない）ではなく、最初から目標金額に達成しても、いなくても事業は実施することとなる。その一部のお金を寄付してください、足りない部分は市がしっかり補填をして、皆さんの寄付を活かしますというものである。不足した部分については、市の一般財源により補填しているが、不足したから補填するのではなく、当初から勝山市ではこの事業は実施するとしてしっかり決定しており、その一部のお金を寄付いただくというシステムになっている。

●委員

- ・今後の企画に関しては、ゆめおーれ勝山のイルミネーションということを考えているのか。

○説明者

- ・来月から募集を開始する予定である。例年ゆめおーれのイルミネーションは行っているが、今年は思い切って「ゆめちゃん」というゆめおーれのアイドルキャラクターを用いてイルミネーションで飾り付け、メリハリをつけようと考えている。

●委員

- ・寄付者は県外の方が多いのか。

○説明者

- ・ものにもよるが、ローカル線ガールズは県外が多かった。ふるさと回帰の映画ということで、東京在住の方などが何百万という単位で寄付をしてくださるケースもあり、金額的には県外の割合が大きかった。ホワイトザウルスは半々ぐらいである。ランドマークにしていたものが壊れたということで、一時期Yahoo!のトップニュースにもなり、県外の全く見ず知らずの方も寄付をしてくださった。今回の社会保険病院のケースも、全く見ず知らずの東京の医師等から何十万単位での寄付があった。PRをしっかりと行い、心に届くものであれば、かなり多く集まるのだと考えている。

●委員

- ・数値が未達成ということだが、ふるさと納税額は毎年上昇している。目標設定値は毎年800万円ずつ上がっているが、設定値としては高めだと思う。少しずつ増えてはいるのだし、それを少し上回る目標設定でもいいのではないかと思う。入ってくるだけでなく出ていく部分もあると思うが、その部分は把握しているのか。マイナスであれば意味がないようにも思うが、出ていく部分というのは公開できない情報なのか。返礼品目当てで出ていく部分もあると思うがどうか。

○説明者

- ・リアルタイムな情報ではないが、圧倒的に勝山市に対してのふるさと納税額の方が多い。

●委員

- ・勝山市の返礼品について、昔HPを見たときに70品ぐらいあったように思う。農産品・特産品を中心に行っていると思うが、中にはチャマゴンと握手できるというものもあったと思う。そういう返礼品の見直しは行っているのか、またその決定はどのように行われているのか。

○説明者

- ・現在、96～98品ぐらい公開している。返礼品は日々見直し、追加を行っている。特にふるさと納税のピークは10～12月であり、そこで例年数がグッと増える。現在、返礼品の追加作業を行っている。ふるさと納税にはいろんな課題や目標値の設定があるが、総務省の方が厳しい返戻率の枠を設けており、その枠を遵守しながら魅力あるものを発掘しているところである。ふるさと納税の人気ナンバーワンは牛肉である。勝山市は返礼品に肉類や海産物、果物という大人気の商品がなく、地場のものしか送付できないというのが苦戦しているところである。ただ、スキージャムのリフト券のようによそにない魅力ある商品もある。さらに、宿泊や米等も送っている。

- 座長
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

### 1 3. 多様な交流活動の推進

#### 1 3 1. 恐竜を活かしたまちづくり（恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの推進）

- 委員
  - ・ジオサイト等の地域の遺産を活かした教育の普及とジオツーリズム活動の推進について、ユネスコスクールについては熱心に活動をしていると思うが、それとの関連はあるのか。
- 説明者
  - ・関連はある。ユネスコスクールは、持続可能なまちのための教育であり、勝山では、環境教育の側面において力を入れている。例えば、ヨシ狩り等の外来種駆除を行い、貴重な植物の生育を促すなど、種の保存・保全といった取組みを平泉寺小学校が行っており、そういった教育に対して、ジオパークの中の環境の部分を用いている。
- 委員
  - ・ジオサイト等の遺産の保全・保護・整備とその活用について、東山いこいの森の管理をされている源野氏が五所ヶ原のご出身であり、興味深い話をされているのを聞いたことがある。白峰では民俗資料館の館長が伝統の保存に取り組んでいるが、東山や五所ヶ原においても、例えば焼畑のような活動の保全を行わないのか。
- 説明者
  - ・エコミュージアムもジオパークについても、そこにあるものをそこで保護・保全して活用するのが基本であるため、そこで活動していただける人がいるなら手伝えるのだが、五所ヶ原集落にはもう誰もいない。これからはそんな集落を作らないようにすることも重要である。
- 委員
  - ・ジオパークは日本にどれくらいあるのか
- 説明者
  - ・萩が認定されたことで、44 地区になった。そのうち 9 地区が世界ユネスコジオパークに認定されている。ユネスコに認定されたジオパークが、世界ユネスコジオパークであり、日本の中だけで認定されたジオパークが日本ジオパークである。
- 座長
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

## 1 3 . 多様な交流活動の推進

### 1 3 3 . 都市間交流（国内）の推進

#### ●委員

- ・国内および県内自治体との多様な都市間交流の推進について、近隣の白山市のお祭りのようなイベントで交流するようなことはないのか。

#### ○説明者

- ・ジオパークの関連では、国内のジオパークとは密接に連携をとりながら終始行き来をしており、相互にPRも行っている。また、それとは別に小松市とは災害協力協定を結び、大野・永平寺とは3市が一体となって観光推進を行っている。永平寺・坂井市・あわら市・加賀市では越前加賀インバウンド推進機構として交流事業を行っている。連携をしながら相互に情報のやり取りを行っている。その他の都市ともイベントで相互に交流をしながら、イベントのレベルアップを図っている。

#### ●委員

- ・現在、姉妹都市や友好都市はないのか。

#### ○説明者

- ・アスペンの友好都市は廃止したわけではない。お互いに友好都市という概念は残っている。アスペンに行くには、アメリカに一泊する必要がある、子ども達を連れていくにはやや遠い。都市間交流ではないが、ハワイに毎年中高生を研修に出している。

#### ●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

#### ●委員

- ・異議なし。

### 1 3 4 . ふれあい市民との交流

#### ●委員

- ・施策指標 ふれあい市民の登録者数について、勝山出身者だけでなく、県外者にもふれあい市民になってもらえたらいいなと思うので、パンフレットを置く場所を増やせたらいいのではないか。若い世代は紙を見ることがあまりないと思う。年配の方にとっては紙の方がいいかもしれないが、アプリやHPの充実が必要ではないか。観光に力を入れている他の自治体では写真を多く使用するなど工夫しており、そこが観光のアプローチにつながっている。

#### ○説明者

- ・新しいHPが12月に公開され、大幅に改修される。検索もしやすくなり、見た目もガラッと変わる事となる。

#### ○説明者

- ・HPのビジュアル化に努めたい。カラーシリーズのパンフレットはTIC東京と提携をして出しており、好評である。多くのインバウンドの方も訪れているほか、日本人の方もつられてきている。また、観光面だけではなく、ふるさと回帰をテーマに映画を製作し、11月からの公開

に向け、準備している。

●委員

- ・青山にある福井のアンテナショップにもビジュアルブックがあるといいと思う。

○説明者

- ・福井のアンテナショップは2か所あるが、敷地も狭く、パンフレットを置くというよりは物販を行うような場所となっている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 135. U・Iターンの推進

●委員

- ・勝山市出身の若者やアクティブシニア等へのふるさと回帰の働きかけについて、移住者の数はどれぐらいか

○説明者

- ・転入と移住との考え方が難しいところだが、市になんらかの相談があって転入した方が57名51組であり、転入者全体では411名であった。一部について、市の窓口で相談を行っている。

●委員

- ・外国人の方の移住者はいるのか。

○説明者

- ・外国人の移住については、勝山市の場合、中国、ベトナム、過去においてはブラジルの研修生の短期受入れというのがひとつの核である。もうひとつは、中国から結婚のために来るというのが主である。それ以外ではほぼ皆無である。

●委員

- ・短期研修というのは織物関係なのか。

○説明者

- ・大野・勝山の2市で遼日産業という会社を組織し、そこが中国の河南省からかなりの数の研修生を受け入れ、奥越の繊維業界に派遣している。それとは別に大きな企業はベトナム等から直接、研修生を受け入れている。

●委員

- ・市内小中学生やその保護者への地元企業のPRによる市内への就職促進について、勝山市の小中学校でユネスコスクール、ESDの教育が活発になされ、その効果もあって、子ども達とその保護者の「勝山を離れたい」という意識は変わってきたと聞いているが、今はどのような状況なのか。

○説明者

- ・エコミュージアムは「地元にもっと誇りを持とう」という活動であり、地域の歴史や文化を子ども達に伝えることにより、子ども達に勝山のことをもっと好きになってもらおうという取

組みを 15 年程度続けている。その中で、確かに意識は変わってきたと感じている。

勝山市の企業は目立たないが、全国的にトップレベル、世界でも最先端の技術を持った会社が存在している。ただし、素材の面で特化していることから、なかなか商品を見ることがない。そういった企業の技術のすごさ等を勝山市内の子供達にしっかり PR して地元に残りたい、U ターンしたいという気持ちを醸成していくため、パンフレットの製作に取り組んでいるところである。

●委員

- ・仕事のための理由で勝山市に来ている方は、あっさりと土地を離れてしまうため、移住者交流会については続けていく必要がある。例えば、勝山の恐竜が大好きというような情熱を持って移住してくれる人を一層獲得するため、関東や関西エリアにジオパークとしての魅力も含めて PR し、I ターン者を増やしていけたらいいと思う。

○説明者

- ・平成 30 年度は、企業に勤める若い方を対象にして、企業間での異業種交流会を移住者交流会に含めて実施している。移住者が慣れてきたころには、10 年ぐらい住んでいる方と、新しく入っている移住者との交流会もしたいと考えている。例えば、市内の会社に入って仕事をし、すぐにやめてしまうというような人をつなぎとめる足がかり的なものにしたい。その素地を今年と来年の 2 年間で固めていきたい。その後、移住者の悩みを聞くような移住者交流会も開いていきたいと考えている。

●委員

- ・リゾートバイトの 20 代の方が恐竜博物館やスキージャムに来ている。都会でもリゾートバイトはここ最近はやっており、大学生や大学卒業後に、夢を探しているような子が行っている。フリーターで住む場所を探している子や色々な地域で働いて、その場所・人を見ているという形で、一時的に勝山市に来る子達となにかしら接点ができればいいなと思う。

○説明者

- ・県のワーキングホリデーという事業があり、ラブリー牧場や北谷、スキージャムにおおむね 10 名程度の学生が訪れた。市のイベントも紹介し、左義長の手伝い等のお願いも考えているが、県の事業とうまくリンクできていないため、学生とコンタクトをとる機会がなかった。積極的に活用していきたい。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 137. シティプロモーションの推進

●委員

- ・市民と協働による「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」のロゴマーク活用した勝山市の PR について、ロゴマークを使用した商品は市内で活用し、市外で売り出すようなものではないのか。



○説明者

- ・勝山市内の方が使われる時に補助を行っている。ただ使用は無料なので、市外の方も使用してもらうことはできる。市内の事業者に限り、ロゴマークの入った製品の製作費の補助を行っている。新聞に掲載される際などには、知らない人に調べてもらって理解してもらっただけでもプロモーションになるため、この制度を設けている。

●委員

- ・Instagram など、最近流行っている媒体を活用したり、HP の検索で上位にあげてもらったり、投資的なことも検討していくとよいのではないか。

○説明者

- ・施策指標については、未達成となっている。なかなか厳しい成果目標であり、単年度、短時間での達成は難しい。現在、U ターンをテーマにした動画を 5 作品並行して作成しており、日本大学芸術学部とジョイントして、11 月を目途に市内で撮影を行う。アニメが 1 つ、ドキュメントが 1 つ、ドラマが 2 つ、ミュージカルが 1 つの構成となっており、完成後には勝山市の観光 PR に活用していきたいと考えている。評価に反映させるには、もう少し時間がかかる。

●委員

- ・動画が完成したら、福井県出身の有名な YouTuber に協力してもらったり、発信するにあたり、動画をたくさん見てもらってアイデアがあるとよいと思う。

○説明者

- ・検討させていただく。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 1.5. 各地区等の地域力向上の実現

### 1.5.1. 市民が主体となった地域力の向上

●委員

- ・地域が主体となったコミュニティビジネスへの支援について、とても良い取り組みであり、今後も拠点となるような施設整備の仕掛けがいていいのではないか。

○説明者

- ・勝山市では、空き家を利用して地域のまちづくりの拠点、ビジネスとしても成り立つものとして、新たに平泉寺区に取り組んでいただいている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 第3章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

### 3.4. 商工業の振興

#### 3.4.1. 活力ある商業経営の支援

●委員

- ・施策指標 市内卸売業、小売業の事業所数について、未達成となっているが解説をお願いしたい。

○説明者

- ・平成29年度の目標が306店となっているが実績は300店となっている。事業所数の正確な数値は不明である。事業所数は全部で1,200ほどあるが、そのうち商工会議所のメンバーとなっているのが670～680ほどである。そういった数値も参考にしながら、少しずつ店舗が減っていることも踏まえて数字を出している。創業される方もいるが、目標には達していない。

●委員

- ・商業団体が実施するまちなか活性化事業への支援について、旅カフェの取組みを詳しく解説願う。

○説明者

- ・まちなかの誘客に向けた取組みのひとつとして、去年の8月にえちぜん鉄道が中心となり、まちなかのいくつかの店と手を組んで実施いただいた。駅前をひとつの旅の出発点と位置づけ、市内の色々なお店の出店や撮影をしながら、まち歩きを楽しむ企画であった。駅前に人工芝を活用して広場を作り、バンド演奏を行うなど、にぎやかな雰囲気を出し、勝山に来た方がまちなかを散策してもらうための仕掛けとした。

●委員

- ・後継者の人材育成支援について、具体的にはどんなものか。

○説明者

- ・事業承継ネットワークというものが県の主導で立ち上がり、その中に今年の6月から市町も参加して事業承継に取り組む支援をさせていただこうということになった。県の産業支援センターに事務局があり、いろいろ支援の体制を構築している。現在1～2件程度の問い合わせがあり、産業支援センターの専門家につないでいる。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

#### 3.4.2. 地元企業への支援

●委員

- ・最先端の技術の開発に対する支援制度は、市にあるのか。

○説明者

- ・全国の最先端をいく技術の開発にかかる費用については、市では追いつかないため国や県の支援となっている。市で支援を行うのは、小売りする新たな商品の開発というレベルが多い。技術開発も支援していないわけではないが、勝山市の繊維産業のレベルは高く、市レベルの支援の枠を超えている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

**3 4 3. 起業家の育成・支援**

●委員

- ・支援制度の充実について、1年間で起業した数が2人いるということか。

○説明者

- ・勝山商工会議所と連携をとって創業塾を5回シリーズで行っており、そこに参加していた方について、把握している人数である。去年は6名が受講し、そのうち1名がサービス業で創業した。空き家スペースを活用した創業ということで、市でも支援を行った。もう1名は創業塾には参加していないが、商工会議所の支援により、空き店舗を活用した創業を行っており、あわせて市による支援も行った。市全体では、こちらで把握していない方もいるとは思う。

●委員

- ・勝山ではネットを使った通販会社が非常に多い。小売店として起業をするというより、そういった方面への助成や補助、税金の減免なども実施しPRしていくとよいのではないか。

○説明者

- ・参考にしたい。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

**3 4 4. ソーシャルビジネスへの展開支援**

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

**3 4 5. 企業立地・誘致の推進**

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 3 5. 観光の産業化

#### 3 5 1. 観光資源の活用による経済の活性化

●委員

- ・まちなかの魅力と賑わいの創出について、岐阜県の中津川では駅前にインフォメーションがあり、JR が通っていることから、訪れた方が情報収集をしやすい。勝山では恐竜博物館を中心にして観光施設やお土産屋ができていますが、訪れるお客さんは車で来る方がメインであることから、勝山駅前が閑散とした雰囲気になっており、さみしい。お客さんの最初の入り口は駅だと思う。市では、まちなかの活性化は多く実施しているが、駅から歩く場合には案内する人もいないため、そこを打開する対策が必要だと考える。

○説明者

- ・市には、これまでまともな観光案内所はなかったが、この春には、ジオターミナルにコンシェルジュを置いて、TIC 東京ともネットワークでつながっている。次の目標設定としては、平成 31 年オープン予定の道の駅で観光案内を創設できないか考えているところである。駅前については、ふるさと茶屋の方と観光情報を共有し、まちづくり会社と連携しながら観光案内を行えないか考えている。

●委員

- ・あわせて、色々なお土産等のグッズを駅前でまとめて買えるようにできないか。

○説明者

- ・人気があるのは縄文の里のおかきである。駅に来た人向けにパンフレットやおかきのほか、日持ちのする他の品物や食品以外のものも置くことができないか、あわせて相談したいと思う。

●委員

- ・勝山駅から恐竜博物館までえちぜん鉄道を伸ばすことはできないのか。

○説明者

- ・昔からそういった話はある。勝山橋を渡るという話は消えたわけではない。LRT を採用すれば橋の上を走れるという話もある。

●委員

- ・観光客誘致よりも外国人の受け入れ態勢、おもてなしを整えた方がいいように思う。

○説明者

- ・自覚はしている。インバウンドへのアクションについては本格的に取り組む前に、本格的な受け入れ態勢をとることが前提であり、まだそこに至っていない。おもてなしの体制と観光客誘致を両輪としてやっていきたい。

●委員

- ・一番最初に恐竜博物館に来ることを想定して、ジオターミナルでのアナウンスということなのか。

○説明者

- ・博物館に来たお客さんをジオターミナルから周辺の観光地へ送客するというのが新しいコンセプトとしてある。ジオターミナルに観光コンシェルジュを設置し、そこからの情報発信を進めていきたい。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 352. 環境整備による周遊性・滞在性の促進

●委員

- ・温泉センター水芭蕉の施設整備と維持管理について、入込客数が未達成となっているが、実際にこの目標数に達したことはないと思う。なにを根拠にこの目標を設定しているのか。入場者を伸ばすために行っている工夫や市内外の利用割合、どちらのお客さんに重点を置いているのかを知りたい。また、修繕箇所を特定して実施とあるがテニスコートの整備は入っていないのか。

○説明者

- ・目標設定については根拠ははっきりしないが、オープンは平成2年でピークの平成10年ごろには19万人が来ている。以降は減少の一途をたどっている。それまでは近隣に類似の施設がなく、お風呂施設に入るのはほぼ奥越の方であり、現在は、その客をあっ宝んど等と分け合っている状況である。人口減少も続いており、ジリ貧の状況は続くと考えている。

30年近く経過しているため、機械設備が非常に古く、優先的に直さないとたない。直せるところから直している状況である。来年度から計画的に修繕を行っていく。内装の修繕について、国の補助制度が受けられたことから、お風呂場の壁を恐竜をイメージしたものにし、タイルも滑りにくいものに交換した、将来的には、露天風呂を作りたいという考えもあり、外に休憩所も設置した。

現在、湯量が減ってきているため、源泉を掘り直すことも必要となるが、大変な経費が必要となる。

現時点では市内客を優先にPRしている。ただし、恐竜博物館に来ている人を呼び込むため、恐竜温泉的イメージを定着させるべく、内装のリニューアルを行った。飲食にも力をいれており、ランチも食べられることもPRしている。

テニスコートについてだが、昨年度も同様の質問をいただいた。修繕について、優先順位をつけざるをえない状況にあり、内装や設備といった水芭蕉本体にお金が必要であり、先送りとなっている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

3 5 3. 観光営業の強化による誘客の促進

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

3 5 4. インバウンド観光の推進

●委員

- ・外国人は観光ガイド本である「ロンリープラネット」を持って旅をしているケースが多い。それに掲載されているか否かによって、観光客が訪れるかどうかという影響は大きいと思う。ロンリープラネットに掲載ができるとよい。ロンリープラネットの日本版があるが、福井県のページは1ページ半のみである。高山市については、1自治体だけで20ページも掲載されている。掲載量＝観光客数という話も聞くため、うまく使えるといい。

○説明者

- ・県内在住の外国人は、福井県で1番すばらしい観光地は越前大仏だと言っている。福井県在住の外国人の方とも相談しながら、ロンリープラネット等も考えていきたい。

○説明者

- ・外国人目線での発信の一環として、国際交流員の方に白山平泉寺についてFacebookにより英語で発信してもらっている。

●委員

- ・勝山に来た方がなかなか泊まらないという問題についてどういう手がいいのか

○説明者

- ・観光産業において儲かるのは宿泊だが、その部分が弱い。ホテルの誘致や部屋数の増加が課題となってくることは認識している。ツアー客ではなく個人客が増えており、ジオターミナルにおいて可能な範囲でインバウンドのお客さんもカウントしているが、車で訪れる方がほとんどであり、どうまちなかに下すのかも課題となってくる。周遊という面では、大野市や永平寺町とも連携をしている。恐竜博物館に来た人をどうやってまちなかに呼び込むかが最大の課題であり、そのためにジオターミナルで情報発信に努めている。また、勝山駅から恐竜博物館までは直行バスを出していることから、えちてつのリンクについてはうまく機能している。ジオターミナルから勝山市内のほか大野や永平寺、あわらまでのアクセスマップも作成し、人気が出ている。

○説明者

- ・市内の飲食店の売上げはH28～H29の1年間で1割程度上昇しており、純増の部分はほぼ観光

客によるものである。恐竜博物館から市内飲食店への送客、飲食店での食事需要は増えており、順調に推移している。

●委員

- ・ある程度の年齢に達した方たちが、落ち着いて何日間か滞在できるようなものがあればいいと思う。

○説明者

- ・市街地の古民家を改装した民泊に取り組みたいという思いがまちづくり会社にもある。関東圏から訪れる、ある程度の年齢に達した方に何泊かしていただくことは想定している。そういった方々のニーズに応えつつ、年齢の高い層や女性層を狙い、関東圏中京圏でのプロモーションを強化していきたいと考えている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

3 5 5. 広域観光の展開による認知度向上

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 第4章 美しい環境や景観の中で便利で快適に暮らせるまちづくり

### 4 3. 環境や景観に配慮したまちの実現

4 3 3. 環境保全・保護、美化活動の推進

●委員

- ・施策指標 市内の希少動植物保全活動と外来種駆除活動の推進について、前年に比べると実施件数が減少しているのは、保全する対象や駆除する対象は変わっていないにも拘わらず、どういった要因で減少しているのか。

○説明者

- ・天候の影響により、活動が中止となったことも要因の1つである。また、担当課が平成29年度から変わり、前担当課のようなもう少し細かいレベル（町内会での掃除のようなもの）は数値を拾えていない。平成30年度からは、もっと細かいレベルまで拾い上げて数値を算出したい。外来種駆除に関しては、駆除することにより減っていくことから、件数も減っていく可能性が高い。活動がトーンダウンしているわけではない。

●委員

- ・外来種が増えているかどうかはどのように把握しているのか。こういった箇所にも外来種が増えているということが判明した時には、どのように対処しているのか。

○説明者

- ・委託して行うようなことはしていないが、「ここにあった」という情報を随時受け付けており、動ける時には動いて抜いている。系統的に調査をして駆除するようなことはしていない。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

4 4 2. 勝山市総合克雪・利雪・新雪計画の推進について

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 第5章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

### 5 3. いきいきと学ぶ生涯学習の推進

5 3 3. 自然体験学習・ジオパーク学習の推進

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。



## 【Bグループ】 農林業・建設分野

担当委員5名

### 第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

#### 2.6. 安全安心に暮らせるまちの実現

##### 2.6.1. 消防体制の充実 について

###### ●委員

- ・各地区の自衛消防力の維持について、自衛消防隊員は、日中は勤めに出ている人が多いと思うが、火災が起きた場合の対応はどうなっているのか伺いたい。

###### ○説明者

- ・特に平日は、若い方が勤めに出ている。現状としては、高齢の方をお願いすることになる。各地区の防火指導では、消火栓、消火器の指導を行っている。また、小型可搬式ポンプを整備している地区について、平成27年度から古いものから順に5地区ずつ、同じ放水能力で重量が半分のポンプへ更新している。

防火指導では、多くの高齢者の方に参加いただくように努めたい。

###### ●委員

- ・消防団員数が1名足りずに数値目標が未達成だが、北谷地区の5分団は人員確保に苦労されていると聞いているが、どのように考えているのかを伺いたい。

###### ○説明者

- ・消防団員については1名増えたが290名の数値目標には1名届かなかった。各分団、消防本部で積極的に勧誘を行い、今年度に入り数値は297名となっている。  
北谷地区の5分団は、確かに人員確保に苦慮している状況である。5分団の人員定数は20名であるが、現在17名となっている。隣接の村岡地区の6分団、野向地区の7分団が応援に行くことができる体制を整えている。そのため6分団は3名、7分団は1名増員となっている。

###### ●委員

- ・消防団員の報酬のトラブルについて、インターネットで記事が出ていたが、勝山市の状況はどうか、お伺いしたい。

###### ○説明者

- ・勝山市では、報酬については、消防団長に委任している。これまでトラブルはない。

###### ●委員

- ・自身も消防団員であるが、モチベーションを持ちながらボランティアの精神で真剣に取り組んでいる人が多い。勝山ではあまり危惧するような問題ではないと思う。

###### ●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

2 6 2. 救急体制の充実 について

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 第3章 にぎわいと産業の振興、連携による持続可能なまちづくり

#### 3 1. 農業の振興

3 1 1. 集落を基盤に考える地域の事業の振興 について

●委員

- ・市民農園の活用促進について、市民農園はいくつくらい場所を設けているのか。

○説明者

- ・市民農園事業は農業公社が主体となって、郡、長山、浄土寺の3か所で展開している。それぞれ5~8区画利用しており、1区画は約50㎡で3~5千円である。現在は12名が利用している。

●委員

- ・新たな担い手への支援について、詳細をお伺いしたい。

○説明者

- ・個人、集落営農で60の経営体がある。そのうちのくちファーム、岡横江ファームが平成29年度に法人化した。

●委員

- ・新規就農者を定住促進につなげる策について、お伺いしたい。

○説明者

- ・勝山市の空いた牧場に県外から就農を目的に訪れ、定住した事例がある。市として、まずは地元の農家の方を知ってもらう、JAなど関係団体を知ってもらうことについて支援を行った。政策としては、農業を切り口に田舎暮らし体験をしてもらい、移住につなげていくことに取り組んでいる。

●会長

- ・農業実績がない人は農地を買えないのか。

○説明者

- ・農業委員会を通して、許可を得るということが要件になる。農地を投機目的で入手するのを防

ぐため、50a以上の農地を取得または借りなければ農業はできない。経営目標を確認して許可を出す。

●委員

- ・行者にんにくのブランド化を考えているのか。

○説明者

- ・勝山市ふるさと活性化協議会や縄文の里料理研究会で試作品の研究をお願いした。天ぷらやあえものの試食を行った。農業公社も株分けをする事業展開を行っており、道の駅で勝山市の特産として提供したいとの意気込みでブランド化を進めたいと考えている。

●委員

- ・勝山の人には新しい野菜には飛びつきにくい方が多いと思う。おいしいと言ってくれる人の意見が大事だと思う。

○説明者

- ・餃子のたねにつかって職員で試食した。食後の臭いが気になるとの女性職員からの意見があった。また、北陸農政局職員から金沢の料亭では高級品だと聞いたことから、市外の方に人気のある幻の山菜ということで、ぜひ、特産化を進めたい。

●委員

- ・若者が来てくれて、ある程度の収入が見込めないと定住してくれない。現状、勝山市の農業の収入の平均は増加傾向にあるのか、減少傾向なのか。

○説明者

- ・個人の認定農業者になるための所得の目安としては年間400万円である。増加と減少のいずれかについては、米の値段に影響されるのではないかと考える。

●委員

- ・JAの基本は営農指導だと思うが、最近の営農指導はどういう状況なのか。

○説明者

- ・勝山には3つの支店があり、それぞれに営農指導員がいて指導しており、様々な取組みが行われている。市の南部地域では野菜作りが盛んに行われている。

●委員

- ・市との協力関係はあるのか。

○説明者

- ・米の生産調整の転作や転作の現地確認については、市とJA、県が連携して確認している。そういった機会には情報交換を行いながら進めている。担い手への支援等も連携して進めている。

●委員

- ・営農指導員もベテランが定年退職し、若い方になってきている。以前より巡回が少なくなっているのではないかと。

○説明者

- ・市とJA、県において農業振興協議会を組織しており、そういった場所でも今回の意見をフィードバックしたい。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

3 1 2. 循環型農業を基軸とした勝山型農業の推進 について

●委員

- ・地産地消の推進について、学校給食では地産地消の取組みが行われているのか。

○説明者

- ・市では地産地消に関して、第3次勝山市食育推進計画を本年3月に策定した。小学校、保育園では、学校菜園で自分達が栽培、収穫したものを給食で食べている。こういった取組みを通して、食べ物を大事にする心が育まれたとの報告があった。また、子どものうちに地元の食材や水に触れることによって、大人になって一度県外に出ても、また帰ってくるようなサイクルができるのではないかとということで、力を入れてやっているとの報告もあった。

●委員

- ・栄養教諭の採用についてはどういう状況か。

○説明者

- ・栄養教諭1名、栄養職員1名がいる状況である。

●委員

- ・遅羽地区の縄文の里料理研究会には、地元小学校の子ども達が作った大豆を使って、きなこ作りやぼたもち作りの体験の実施してほしいとの依頼がある。子ども達と地域の交流が行われている。

○説明者

- ・学校菜園も学校だけでなく地域の方の協力をいただいている。

●委員

- ・上志比のトウモロコシやニンニクはテレビで放送されている。勝山市でもいろんな作物を作っている。春の水菜はテレビに出るが、もっとPRをしてほしい。特に大仏さといもはあまり聞かない。

●委員

- ・越前さといもと名前が変更した。

新たな農産物直売所、加工所設置への支援について、道の駅のアンケートの状況を伺いたい。

○説明者

- ・道の駅開設に向けて、昨年11月に市内の直売所に対してアンケートを実施した。その結果、その7割から道の駅に参加との回答を得た。若猪野メロン、九頭竜川勝山アユ、サトイモ、ネギ、米、ミディトマト、菊など約70品目が出荷可能とのことであり、その素材を活用した加工品もある。今後の課題として、品揃えと通年出荷できる体制づくりが求められている。

●委員

- ・上志比の禅の里を見ても、加工品等の商品があまりない。どちらかというと海側の道の駅は活

性化していると思う。農村部の道の駅はたいへんだと思う。通年かけて、いったい何を出せるのか、特に冬はピンチだと思う。

○説明者

- ・まさしくその通りであり、冬は勝山水菜だけというわけにはいかない。その時期は、例えば、加工商品や市内の土産物で対応するようにしたい。また、時期によっては、陳列場所をフレキシブルに変更する方法を考えている。小松市にも道の駅があり、開業8年で350万人が訪れた。小松市なので野菜が豊富にあったが、購入者のことを考えて、北海道産や群馬産の物も売っていた。指定管理予定者とよく検討して進めていきたい。

●委員

- ・一般スーパーの分野に参入していくところにもなりかねない。当然、魅力ある商品でないと市民も買いに行きたいとはならない。それをすることで、民の圧迫になってトラブルになることも考えられるが、どのように調整を考えているのか。

○説明者

- ・直売所で野菜等を購入するお客さんは何を求めているのか、それがひとつのヒントになるのかなと思っている。地元の特産品であり、生産者の顔が見えることによる食の安全・安心の確保、そして朝採りの旬の物が購入できるという点がスーパーとの違いではないかと思っている。

●委員

- ・道の駅は訪れる人の目的が違う。そういう方々の求める商品やサービスをよく考えないといけない。採りたての野菜をそこで選んで、隣のブースで天ぷらにして食べるというようなサービスもいいのではないか。そういうところを工夫して、どうやって引きつけるかという点を考えていかなければならない。

●委員

- ・サンプラザやかじ惣の入り口にある個人のコーナーのようなイメージだと思うがどうか。

○説明者

- ・サンプラザのハニー中吉にあるかっちやま太陽市は、平成22年度に女性や高齢者の方に活躍してもらうことを目的として、地産地消を行う県の事業を活用し、市の支援のもとに開設された先行事例であり8年続いている。道の駅にも参画してもらえるよう依頼したいと考えている。

●委員

- ・道の駅では水辺の活用もされると聞いたがどうか。

○説明者

- ・立地場所が勝山恐竜橋のたもとであり、具体的に決まってはいるが、子ども達が安全に水に親しむことのできる親水空間を整備し、そこでアユの掴み取り体験等の実施を考えている。道の駅を拠点としたアユ釣り教室やアユ釣り大会等の開催も行いたいと考えている。今年もアユ釣り大会を開催したが、子どもの時にアユ釣り教室に参加したという人がアユ釣り大会に参加しており、教えを受けた若い人が、大人になって若い人を教えるという循環が大切だと思っている。

●委員

- ・施策指標 田舎暮らし交流の年間受入人数について、田舎暮らし体験の受入人数の目標が未達成だが現状について、お伺いしたい。

○説明者

- ・昨年、パンフレットを製作した。パンフレット等を活用し、PR や募集を行っている。勝山田舎暮らし体験応援倶楽部キラリという任意団体があり、主体となって事業を展開している。受入先として19の個人・団体がある。情報発信を積極的に行い、目標を達成するよう取り組みたいと考えている。

●委員

- ・大学生がゼミなどで参加するといったニーズがあると思うが、そういう所に情報が届く広報をすると成果が上がるのではないかと思う。

○説明者

- ・北谷町の小原集落では、古民家の再生を福井工業大学生と連携して行っている。学生が長期に宿泊滞在をしている事例がある。大学生をターゲットに考えながら、どのように情報発信していくのかということもしっかり考えていきたい。今年は、農林水産省北陸農政局から4人、本省から1人、採用1年目の方を受け入れ、勝山市の良いところ等について意見交換も行った。

●委員

- ・鹿谷の農業団体では、2年連続して大学生を受け入れた。大学生はたいへん感激して帰っていた。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

3 1 3. 経営効率化に資する生産基盤・農業用施設の適正な機能の確保 について

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

3 1 4. 鳥獣害防止対策の推進 について

●委員

- ・県や猟友会など関係機関との連携強化について、獣害対策において、猟師の許可は市が出しているのか。

○説明者

- ・獣害はイノシシが多い。罾を設置する際に市長の許可が必要となる。

●委員

- ・先ほど、特産品の話があったが、加工して特産品にできないのだろうか。

○説明者

- ・県が中心になり獣肉解体処理施設の調査・研究を行っている。イノシシだと年間に1,000頭捕獲しなければ採算があわないと言われている。勝山市は捕獲数が増えてきているが、約360頭の捕獲であった。今年度は、現在で120頭であり、昨年より少ない状況である。

●委員

- ・大野市の現状はどうか。

○説明者

- ・大野市は平成29年度に5,000万円かけて処理施設を建設した。広域行政事務組合には、ごみ処理施設に小規模の当該施設があり、そこで処理している。

●委員

- ・後の処理がたいへんだから積極的に捕獲しないということはないのか。

○説明者

- ・後の処理については、市が責任を持って行っている。各集落は、檻や罠の設置にも積極的に取り組んでいる。現在は、約100個の罠を仕掛けており、毎日、捕獲の連絡がある。

●委員

- ・固定柵、ネット柵、電気柵の防止対策を講じていると思うが、被害の状況はどうか。

○説明者

- ・共済加入農作地においては、被害額はそんなに減少していない。勝山市は、固定柵、ネット柵、電気柵の補助金申請が多くあり、延長距離は県内で飛び抜けて長い。勝山市の地形は星形になっており、山が近いことから延長が長くなる。

●委員

- ・道路部分が開いているため、そこから侵入してくる。

●委員

- ・サルの被害はどうか。

○説明者

- ・荒土町の境地区、新道地区、野向町龍谷地区でよくサルの目撃情報がある。残飯などを家の近くに捨てないことやカキ等の作物を早めに収穫するようお願いしている。

●委員

- ・猟友会の現状はどうか。

○説明者

- ・猟友会には猟銃を撃てる人が20人と罠を仕掛ける資格を持った人が約50人在籍している。猟銃を撃てる人が高齢化しているが、今の所は存続できないとかではない。

●委員

- ・存続できなくならないように早めの対応をお願いしたい。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 3 2. 林業の振興

### 3 2 1. 持続的な森林管理の推進 について

●委員

- ・松枯れ等の対策の実施について、暖冬の影響で木の立ち枯れが多いと聞いたが勝山市はどうか、お伺いしたい。

○説明者

- ・平成 29 年度は、枯れ松の伐倒を 1 ha 行っている。すでに枯れている松はあるが、新しく広がっているという報告はない。松以外の木について、立ち枯れを起こしているという情報は入っていない。

●委員

- ・九頭竜森林組合と各生産森林組合の行う森林育成や造林事業活動に対する助成について、3 年程前にいずれは無くなると聞いたがどうか。

○説明者

- ・生産森林組合への補助金は、昭和 29 年の勝山市の合併当時から始まっている。急に打ち切ることには考えてはいない。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 3 2 2. 多様な活動主体による森林活用 について

●委員

- ・施策指標 東山いこいの森の利用者数について、未達成となっているが現在はどのような状況かなのか。

○説明者

- ・目標達成に向けて平成 29 年度には、五右衛門風呂等の必要な改修整備を行った。HP の情報等を見て県外からも来ていただいているが、子どものキャンプがなかなか伸びないのが現状です。

●委員

- ・恐竜も絡めたり、人を呼び寄せる手法は色々あるのかなと思う。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。



### 3 3. 内水面漁業の振興

#### 3 3 1. 水産資源の保護・活用 について

●委員

- ・アユ釣り体験など、市民が水辺環境に親しむ機会の提供について、道の駅でのアユの掴み取りはどのように実施するのか、お伺いしたい。

○説明者

- ・敷地内で人工的な小川になるかも知れないが、子ども達が安心して体験できるようにと考えている。イメージとしては、ゆめおーれ勝山に流れている小川を活用し、今年の8月に掴み取りを行ったようなイメージを考えている。

●委員

- ・観光客がいつ来てもできるような形にするのか。

○説明者

- ・主に夏休み期間を主眼に置いて、土日祝日や他の日は予約を取って行う予定で考えている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 【Cグループ】 健康・教育分野

担当委員5名

### 第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

#### 21. 健康のまち勝山の実現

##### 211. 健康づくり活動の推進 について

- 座長
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

##### 212. 保健サービスの充実 について

- 委員
  - ・施策指標 乳幼児健診の平均受診率について100%を目指してほしい。健診を受けていない理由は把握しているとのことだが、数値は下がっている。はっきり把握しているのならば、医療を受けさせないとか、行方不明だといったような明確な理由を調書に記載した方がよいのではないか。
- 説明者
  - ・理由については把握している。市では乳児に対し、1か月、4か月、9・10か月検診を行っている。1か月、4か月健診の受診率は100%、9・10か月健診の受診率は93.7%という状況である。1歳半と3歳児健診の受診率が下がっていることから、全体的に下がっている。その理由として、年度末である3月の対象者について、受診期間が1か月しかないことから、月内に受けられないことがある。
- 委員
  - ・100%の達成をすることはなかなか難しいのではないか。そうであれば、数値目標の設定をよく検討してほしい。
- 説明者
  - ・なかなか難しい。翌4月の受診者も含めるとほぼ100%である。
- 委員
  - ・がん検診のPRによる受診率の向上について、記載にある子宮がん検診無料クーポンを116名に発行して受診者数は6名とか、乳がん検診無料クーポンを126名に発行して、受診者数23名という結果になるのはどういうふうに理解すればよいのか。乳がんは近年、特にメディアで取り上げられており、子宮頸がんも女性特有のものであるのになぜ受診しないのかとを感じる。この数値に対する今後の対策として、具体的に教えてほしい。

○説明者

- ・無料クーポンについては国の事業であり、市のほうで実施している。子宮頸がんについては、対象となる大学生の住所が市内にあっても、実際には県外に住んでいる等のケースがあり、なかなか正確な対象者を把握しきれない状況である。ただし、20～30代での子宮頸がんは増加しており、ぜひとも受けていただきたいので、PRを一層強化していく。41歳の乳がん検診についても、無料クーポンを発行しているが、ご指摘のとおり受診者数は多くない。難しいのは、会社での検査や独自で人間ドッグを受けている方の数値を把握することができないところである。また、2年に1回配布することから、前年受診した方は受けないというタイミングの問題もあるかもしれない。

●委員

- ・この数値設定についても今後、検討が必要になると思う。

●委員

- ・喫煙対策と受動喫煙防止に向けた取組みの推進について、一部未達成としているのはどういう趣旨なのか。講座については、どういった時間帯にどういったことを行っているのか。

○説明者

- ・事業を実施しているが、なかなか参加者が集まらないことから、一部未達成とした。H30.3末に医師による講座を行ったが、家族が聞きに来られることが多く、本人の参加がなかなかない状況である。

●委員

- ・タバコの売り場には、健康への影響が大きく表記もされており、そういった周知活動が進む中で、講座を行っている意味はあるのか。

○説明者

- ・禁煙のきっかけづくりになってほしいと思っている。また、家族の方々には、やめさせたいと思っている方も多くいる。その後押しをしたいと考えている。禁煙の個別相談も行っているが、受ける方はなかなかおられない。

●委員

- ・タバコについては、やはり本人の問題であると思う。例えば、こういう風にしてやめましたという実例を示すなどして、意味のある講座を行ってほしい。

●委員

- ・喫煙による心臓病やCOPDの罹患は、社会的・経済的問題にまで影響している。昔は、公共交通機関でも普通にタバコを吸っている人がいたが、現在は分煙が進んでいる。周りが容認している面もあるのではないか。地域の集落センターにまで踏み込んで禁煙を進めるのも一つの手だと思う。各地区に禁煙ステッカーを配布したのはよいことだと思う。

●委員

- ・喫煙者本人がしっかり治療を受けてほしいと思う。医師の治療を受けさせるレベルまでの対策を講じてもよいのではないか。

○説明者

- ・健康増進法が改正され、東京オリンピックに向けて色々な個所において、喫煙規制がスタート

している。それにあわせて、市としても周囲への働きかけを推進したい。

●委員

- ・年齢の若い段階から喫煙に対する注意を喚起するとよいのではないか。特に医療の側面から訴えていくのがよいのではないか。

●委員

- ・受動喫煙の抑制という観点も大切である。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 2.2. 安心して暮らせる長寿社会の実現

### 2.2.1. 高齢者の生きがいと健康づくりの支援 について

○説明者

- ・施策指標 要介護認定率について、数値に間違いがあった。H29 の数値は 18.3%が正しく、「達成」となる。

●委員

- ・要介護率が下がった要因は何なのか。1年間で簡単に下がるものなのか。

○説明者

- ・要介護認定率とは、65歳以上の人口に占める要介護状態の方の割合である。人数としては、1,491人が該当する。制度が変わったことから、要支援者の人数が減る結果となった。ただ、市としてもお出かけサロンなど色々な介護予防事業を100回以上実施しており、その効果も表れているのではないか。

●委員

- ・元気な高齢者によるボランティア活動や活躍の場の提供による生きがいづくりの推進について、お出かけサロンにおけるボランティアの参加数が実施回数126回に対し、5人というのはどういうことなのか。

○説明者

- ・126回のお出かけサロンに、毎回5人のボランティアが参画しているということである。前年度より、やや実施回数が減少したのは雪の影響のためである。

●委員

- ・地域見守り事前登録制度の周知について、きちんと該当者の把握はできているのか。

○説明者

- ・この登録制度は市が実施しており、行方不明等の緊急時に警察等に情報を伝達する。新規登録者は11名であり、総数は23名である。警察とも情報共有している。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

2 2 2. 高齢者介護体制の充実 について

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

2 2 3. 高齢者総合相談・支援の充実 について

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 2 3. 福祉のまちづくりの実現

2 3 1. 障がい者福祉の充実 について

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

2 3 2. 生活困窮者への支援 について

●委員

- ・数値目標 生活困窮者自立支援事業の新規相談受付件数について、この数値は22件以上を維持することが果たしてよいことなのか。相談件数が減少することはよいことではないのか。

○説明者

- ・国の制度の基準に基づいて、このように設定した。設定時は県内でも上位（26.6件）の相談件数であったが、新規に相談に来られた方には継続的な支援を行っており、新規の方は減少する傾向にある。おっしゃるとおり、景気が良くなれば相談数は減っていく。

●委員

- ・この数値設定でも問題はないと思うが、対象者を分母、相談した人を分子にして数値を出すほうがよい気もする。

○説明者

- ・計画の改定にあわせて、新たな数値を検討したい。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 2 3 3. 地域福祉施策の充実 について

●委員

- ・避難行動要支援者登録済ファイルは区長や班長にしか情報共有されておらず、例えば、その方の近所の方には周知されない。それでは、いざという時に対応できないのではないか。

○説明者

- ・登録時には要支援者の協力者（緊急時に助けてくれる人）も記載いただいている。協力者と区長・班長とが連携して緊急時に対応してほしいと考えている。ただし、協力者欄の記載は実際のところ、遠方に住むご家族としている場合も多い。実は、希望する自主防災組織に対しては、同意を得て、登録ファイルを渡すことも可能である。地域の中でも支援体制の強化に取り組んでほしい。

●委員

- ・その通りだと思うが、自主防災組織の設立には地域ごとの温度差がある。設立ををもっと強力に推し進めてほしい。支援を求めない人も地域によっては、いるのではないか。

○説明者

- ・正直なところ、その把握はなかなか難しい問題である。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 2 4. 結婚・出産・子育て支援日本一の実現

### 2 4 1. 結婚支援策の充実 について

●委員

- ・施策指標 市が支援したカップルの婚姻数について、数値目標が厳しいのではないかと気がする。達成するにはどうしたらいいのかと思う。

○説明者

- ・おっしゃる通り、なかなか苦勞している。効果が上がり、5件のカップルが成立したこともあるが、近年は本当に苦戦しており、H30は0件となっている。ベテランの結婚相談員に伺っても、今年はなかなか難しいとおっしゃっていた。夜間相談にも、男性しか来ない状況とのこと

である。お見合い形式は残していかなければならないと思うが、個人主義が色濃くなってきている今日において、なかなか現実には厳しい。例えば、ラフティングなど楽しいイベントを企画しても、その場が楽しく過ごせばいいという思いで参加する方もいるようである。ただし、お付き合いをしている方はいる。フリーペーパーを見て、関西方面から来てくれることもあり、うち1人は両親に紹介するところまでいったようだが、その後はまだ把握していない。

●委員

- ・市内にはそういう方がたくさんいる。

○説明者

- ・市内企業への働きかけも行っている。そのおかげで参加してくれる方もおり、一定の効果があったと考えている。

●委員

- ・結婚すること自体のイメージアップを図る働きかけも必要なのではないか。

○説明者

- ・県もイメージアップを図る映像ツールを作成しており、それも活用している。

●委員

- ・婚活イベントにはきっと効果があると思う。出会いがないと悩んでいる子も実際にいる。堅苦しいものでなく、街コンを実施するのもよいのではないか。

○説明者

- ・以前に街コンを企画したことあるが、どんな人が来るのかわからないので怖いという意見をいただいた。例えば、既婚の方が来ることもあるようである。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

#### 242. 出産支援体制の充実 について

●委員

- ・**出産連携体制の支援と情報発信**について、産婦人科医が常駐するようになり、とてもすばしいことだと思う。

○説明者

- ・出産まで対応することはできないが、常勤1名、非常勤2名の体制となっている。最も良くなった点として、救急対応や簡易な手術はできるようになった。H30にはガバメントクラウドファンディングによる支援もお願いした。

●委員

- ・とてもすばらしいことだと思うが、そのあたりのことが市のHPには何も紹介されていない気がする。12月にHPが新しくなるのだから、そのあたりをどんどん周知してほしい。子育て支援のPRはしっかりされているのだから、一連の流れが分かるともっとよいと思う。

○説明者

- ・今後、しっかり対応したい。妊婦の方については、妊娠届出時に説明しているものの、情報量が多すぎる面があり、気を付けたい。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

2 4 3. 子育て支援策の充実 について

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 2 5. 安定した医療、保健制度の実現

2 5 1. 地域医療体制等の充実 について

●委員

- ・かかりつけ医を持つことへの市民への働きかけについて、かかりつけ医を持っている市民の割合の数値が上昇しているが、算出の方法はどうしているのか。

○説明者

- ・特に PR には力を入れている。その中で、以前に比べて年配の方々の意識が向上している部分があると思う。算出方法だが、アンケート調査等により把握している。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

2 5 2. 安定した国民健康保険制度の運営 について

●委員

- ・施策指標 特定健康診査の受診数について、この数値は毎年、未達成となっている。個人の話だが、今年、初めて受診してみた。流れも時間もスムーズであり、とてもよかった。価格も安価であり、せっかくの機会なので、もっと受けるよう PR をがんばってほしい。受診率を向上させるために、具体的に何をすべきと考えているか。

○説明者

- ・H29 の状況を踏まえ、未受診者対策を講じるため、現状分析を行った。胃がん検診が H28 より 2 年に 1 回の受診となった影響があると考えている。また、かかりつけ医による健診の受診や



治療を行っている方も増加している。今後の未受診者対策として、受診勧奨通知を送付して意識付けを行っているほか、新規の国保加入者への働きかけも徹底している。また、3年以上、検診や医療にかかっていない方には訪問や電話対応を行っている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 2.6. 安全安心に暮らせるまちの実現

2.6.2. 救急体制の充実 について (報告書20頁)
------------------------------

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。